

# 生駒市教育委員会

## 1. 重点課題への取組状況

小学校においては新学習指導要領に基づく学習を確実に実施していくとともに、中学校においては、移行措置期間の最終年度として全面実施に向けた取組の充実及びその先行実施を含めた次年度への準備に取り組んできた。本市としても、主に夏期休業中等を中心に、研修を実施するなど、教員の指導力向上に向け取組を進めてきた。

- ◎基礎基本の確実な習得を図る指導法の研究
- ◎知識や情報を活用して、問題解決を図る活動の充実
- ◎学習に対する意欲を高める手立ての工夫
- ◎学校全体で取り組む体制づくり
- ◎学校・家庭・地域が連携する取組の充実
- ◎各種調査結果を生かした授業改善、指導改善の実施

### (1) 市内児童生徒の実態や授業の様子把握

これまでの全国学力・学習状況調査等の結果を基に、市内児童生徒の学力や学習状況、そこから見られる授業の様子等について、本市の傾向を分析した。

#### ○ 学力について

本市は全国学力・学習状況調査の国や県の結果等に比べ概ね良好であるものの、学習意欲や知識・技能の活用等、そこから見られる課題は県のそれと同様の傾向があり、その改善を図る取組の充実が重要課題である。

#### ○ 学習状況について

##### (生活)

- ・小・中学校ともに朝食は毎日とっているが、中学生の6割以上が夜12時以降に寝るなど夜更かし傾向が強い。
- ・小学生は比較的家族で話をするが、小・中とも家族と一緒に夕食を食べている家庭は少ない。

##### (行動や考え方)

- ・自分の将来について考えをもっている児童は比較的多い。
- ・きまりや友達との約束を守っていると認識している中学生は多いが、小学生は少ない。

##### (学習時間や学習意識)

- ・普段や休みの日の家庭での学習時間が長い。通塾率が高く、休みの日に学習塾で長時間学習する児童生徒が多い。
- ・国語・算数(数学)ともに、大切と思うが好きではない児童生徒が多い。算数(数学)に比べて国語は授業内容がよく分からないと答えている児童生徒が少なくない。

##### (学校での授業)

- ・小学生は、普段の授業で考えを発表する機会やグループで話し合う機会が比較的設けられていると感じている傾向があるのに対し、中学生ではその機会が設けられていると感じている生徒は少ない。
- ・小学生は、言語活動を取り入れた学習や思考・判断・表現を取り入れた学習が行われていると感じている傾向にあるが、中学生で同様に感じている生徒は少ない。

### (2) 教育課程研究協議会の実施 (H24. 2. 2)

中学校の教務担当教員等による研究協議会を開催し、新学習指導要領に基づく教育課程の編成・実施に向けて、各校の教育課程を持ち寄り、その工夫点等を出し合いながら情報交換を行

った。市教育委員会からは、教育課程編成・実施のポイント等を指導するとともに、その評価方法及び指導要録の記載について指導を行った。

### (3) 指導主事による学校訪問指導

学校からの要望を基に、県教育委員会指導主事の要請訪問による指導を受けた。また、市教育委員会指導主事が随時校内研修の指導に当たった。

平成 23 年度実施 小学校 9 校 16 回 (国語、算数、書写、体育、道徳 等)

中学校 1 校 1 回 (論理的思考やグループ討議と効果的な板書について)

小学校では、教科ごとにほとんどの学校が外部から指導者を招いて授業研究を行っている反面、中学校ではその機会が少ない。今年度、グループ討議の仕方や板書の仕方等、授業の組み立て方の工夫について講師を招へいし、研修をした学校もあった。また、これまでに授業研究週間を設定し、一人 1 回必ず公開授業を行う研修を実施している学校もあった。参観した教員からは、「よい刺激になった。」「新しい見方ができた。」などの感想も聞かれた。

### (4) 推進校における実践研究

生駒南第二小学校が、県の学力向上実践研究推進校の指定を受け、全校体制で研究に取り組んだ。

(研究主題) 「自ら考え、仲間とともに深め合う子どもをめざして」

算数科を中心として基礎基本を定着させる指導の在り方の研究

(研究内容)

児童の実態把握 … 全国学力・学習状況調査及び県学力診断テストの結果等の活用

授業研究等による教員の授業力の向上 … 学校独自の学力テストの実施

児童の学力向上を目指す指導体制の工夫 … 少人数指導の実践、「放課後学びタイム」の実施

教材・教具の開発 … 学習内容の系統性を図った算数プリントの作成、デジタル教材の活用

### (5) 学力向上実践研究 研究発表会の開催 (H24. 1. 27)

生駒南第二小学校において授業研究等による教員の授業力の向上、少人数指導等の指導体制の工夫、「放課後学びタイム」の実施による基礎基本の充実を主な内容として、取組やその成果を発表する研究発表会を開催。当日は、県内、市内から約 100 名の参加者を得た。

公開授業 「20 よりおおきいかず」(1 年 2 組)、「重さをはかろう」(3 年 1 組)

「順序よく整理して調べよう」(6 年 2 組)、「放課後学びタイム」

研究発表及び研究協議、指導講評

講演 「算数的活動と授業改善」

天理大学人間学部教授 上田喜彦 氏

成果の発信 開催校 Web ページに当日配付資料や研究集録、研究紀要を掲載し研究内容を公表している。

### (6) 学力向上のための市費負担講師の配置

#### ○ 伝え合う力育成事業の実施

情報教育専門講師による情報活用能力の育成、外国語指導によるコミュニケーション能力の育成、読書活動推進による読む力の育成や感受性の育成により、児童生徒が自分の思いや考えを様々な手段を使って他の人に伝える力の基礎を培うことをねらいとしている。

・「情報教育専門講師」 2 名の講師が全小学校を担当 総合的な学習の時間の中で、情報教育を推進

・「わくわくイングリッシュサポーター」 全小学校第 5・6 学年に学級当たり年間 11 時間配置

小学校外国語活動の指導の充実

・「学校図書館司書」 全小・中学校へ週 1 日配置 読書活動の推進、言語活動の充実 図書室の整備、読み聞かせ、ブックトークなどにより、読書量が増加した。

今年度 2 人から 7 人に司書を増やし、全小・中学校に配置した。

次年度は、さらに大規模校を対象に配置日数を増加する予定。

#### ○ その他、講師の配置

・「学びのサポーター」 31 名を 19 小中学校等に配置 学力補充の充実

学生サポーターを募集し、主に教科学習の指導補助に当たって

いる。

- ・「特別支援教育支援員」 22名を16小中学校等に配置 学力補充の充実、個別指導通常学級に在籍する発達障害等特別な支援を要する子どもへのサポートを行っている。  
次年度は、よりきめ細かな指導を行うため、配置日数を増加する予定。

#### (7) 各種研修会等の実施

- ・教員英語研修 (H23. 7. 25～29) 95名参加  
少人数グループによる英会話レッスン
- ・外国語活動指導者研修 (H23. 7. 26～29) 52名参加  
アクティビティ、チャンツ、英語ノートを使った模擬レッスン 等
- ・情報教育研修 (H23. 7. 26～28) 200名参加  
Word、Excel、PowerPoint の基礎・応用
- ・地域ぐるみ健全育成協議会保・幼・小・中交流学習会 (H23. 8. 26) 380名参加  
合同交流発表会 (H24. 2. 4) 300名参加  
学校・家庭・地域が連携した児童生徒の健全育成を目的に開催

#### (8) 他市町との学力向上実践の交流

学力向上実践研究推進地区（御所市、田原本町）及び推進校（御所市立大正小学校、名柄小学校、田原本町立北小学校）での学力向上に関する取組についての情報交換

- ・H23. 8. 23 第1回学力向上実践研究推進協議会
- ・H23. 11. 29 学力向上実践研究発表会（御所市立大正小学校）
- ・H24. 1. 27 学力向上実践研究発表会（生駒市立生駒南第二小学校）
- ・H24. 2. 3 第2回学力向上実践研究推進協議会

## 2. 調査研究の成果及び今後の課題

- ・今年度、県の研究指定を受け研究指定校を中心に本市として学力向上に取り組んできた。本市ではこれまでからも、少人数によるきめ細やかな指導ができるよう市費講師等を配置している。「学びのサポーター」や「イングリッシュサポーター」などの予算確保に努め、今年度は昨年度に比べ充実した配置を行ってきた結果、各学校で個を大切に学習ができてきている。次年度は更に充実したものとなるよう支援していきたい。
- ・新学習指導要領が全面実施となり、学習内容の増加等や指導方法の改善に十分に対応できる指導力の向上が求められている。児童生徒の意欲を引き出す工夫や教材研究の充実などを個人はもちろん、学校体制としてその機会を保障する手立てを講じる必要がある。そのためにも研修組織を工夫し、例えば今回改訂のポイントである「コミュニケーション能力を身に付けるための工夫」を研修のテーマとして、教科の枠を越えた授業研究に取り組むなど、全教職員が参加できる体制で研修を深めることが大切である。それにより、実績の少なかった中学校でも有意義な授業研修に取り組むことができると考える。
- ・県教育委員会指導主事の派遣を要請し、研修を行っている学校は多くない。今後、研修内容を充実させるためにも、指導主事による専門的な指導を受けながら授業力向上を図っていきたい。また、校内研修に市教育委員会の指導主事ができるだけ参加し、研修の実態把握や研修方法等の指導に努めていきたい。
- ・今年度、県の研究指定校の生駒南第二小学校では、授業研究等による教員の授業力の向上、少人数指導等の指導体制の工夫、「放課後学びタイム」の実施による基礎基本の充実を主な内容として、全校体制で研究を行い、具体的な数値を示してその成果をまとめ、1月の研究発表会で報告した。また、学校のWebページに研究内容と成果を公表している。研究発表会には、市内全小・

中学校から教員が参加し、研究内容を自校の研修に生かすようにしている。

- ・新学習指導要領の実施状況を把握するため、県の学習状況調査の結果を基に、児童生徒及び教員に対するアンケート調査内容を検討した。次年度の中学校での全面実施を受けて実施し、その実現状況を把握し、課題を分析するとともに、その改善方法を検討していく。

特に、中学校で言語活動の充実を図る取組があまりされていない状況にあることや小・中学校ともに教科学習が好きと答える児童生徒の割合が少ないことにポイントを置いて、その改善に取り組んでいきたい。